



令和7年度

大阪狭山市**水**循環協議会

説明資料



令和8年2月18日（水）





1 開会

2 委員のご紹介

(1) 委員のご紹介

(2) 役員の改選

3 大阪狭山市水循環計画の改定について

4 施策カルテの情報共有について

5 その他

(1) 今年度の水循環計画に係る活動報告



1 委員のご紹介について

P.3

(1) 委員のご紹介

(2) 役員の改選

(1) 水循環基本法と流域水循環計画

水循環基本法

水をまもる
法律ができた

水循環基本法は、平成26年(2014年)4月に制定されました。

この法律は、近年の社会情勢や気候変動などの要因から健全な水循環を維持または回復するために、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進することを目的としています。

水循環基本計画

水をまわす
計画ができた

水循環基本計画は、水循環基本法に基づき平成27年(2015年)7月に策定されました。この計画は、健全な水循環を維持または回復するために、水循環に関する施策を総合的かつ計画的に進めることを目的とし、我が国の水循環の基本となる計画として策定されました。



めぐる「水」ともに生きる大阪狭山

『**水循環基本法**』は、水に関する法律や担当省庁が細分化され、相互の連携が難しくなっていたことから、**水に関して総合的かつ一体的**に対応する法律として制定されたもの

『**水循環基本計画**』は、水循環基本法に基づき、水循環施策の総合的・計画的な推進を図るため策定。情勢の変化を勘案等し、**おおむね5年ごとに見直し**（水循環政策本部で案文を作成し、閣議決定）

『**流域水循環計画**』は、水循環基本計画に基づき、健全な水循環のための流域マネジメントの普及と活動の活性化を図っていく取り組みの一つとして、全国の自治体が策定する水循環に関する計画のこと



2 大阪狭山市水循環計画の改定について

P.5

新たな水循環基本計画において「重点的に取り組む主な内容」

今後おおむね5年間は、主に以下の取組に重点を置いて取組を推進

1. 代替性・多重性等による安定した水供給の確保
2. 施設等再編や官民連携による上下水道一体での最適で持続可能な上下水道への再構築
3. 2050年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進
4. 健全な水循環に向けた流域総合水管理の展開

(2) 新たな水循環基本計画の概要

① 代替性・多様性等による**安定した水供給の確保**

【背景・課題】

- ◆ 令和6年能登半島地震時では、**水インフラが甚大な被害を受け、飲料水だけでなく生活用水の確保が課題**
- ◆ 被災地の一部では、**地下水や湧水、雨水が活用されるなど、代替水源の重要性を再確認**



① 代替性・多様性等による**安定した水供給の確保**

【新たな基本計画における取組例】

- ◆ 災害時の拠点となる避難所や病院など重要施設に係る上下水道管の耐震化等を一体で推進するなど、**水インフラの耐震化**を推進
- ◆ 早期復旧を実現する**上下水道一体となった災害復旧手法を構築**
- ◆ 非常時に地下水、雨水等を**代替水源として有効活用**
- ◆ 雨水も利用できる**水循環型シャワーなどの災害対応上有効と認められる新技術の活用**を推進



R7大阪狭山市防災フェスタで展示した水循環型シャワー

② 施設等再編や官民連携による上下水道一体での最適で持続可能な上下水道への再構築

【背景・課題】

- ◆ 人口減少に伴う収入の減少、老朽化施設の増大などの課題解決に向け、**上下水道一体での基盤強化**が必要
- ◆ 気候変動の影響が顕在化しつつある現状を踏まえ、**カーボンニュートラルの実現**に向けた取組が必要

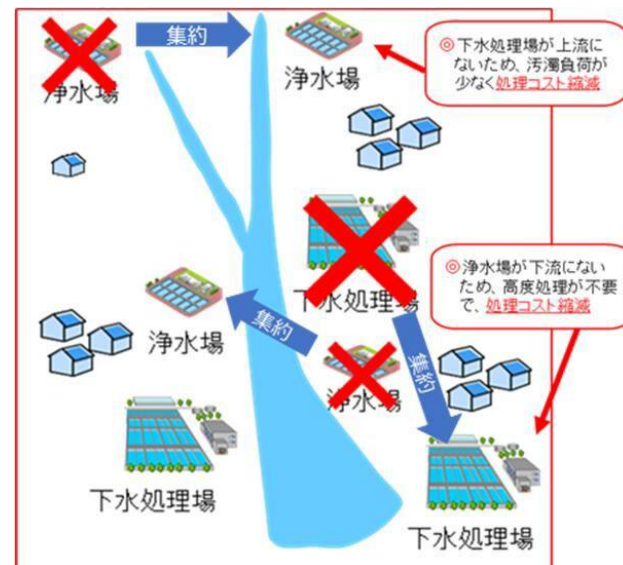


下水道管の布設年度別管理延長

② 施設等再編や官民連携による上下水道一体での最適で持続可能な上下水道への再構築

【新たな基本計画における取組例】

- ◆ 地域の実情を踏まえて、**上下水道施設等の広域化**を推進するとともに、**分散型システム**を活用
- ◆ カーボンニュートラルの視点も踏まえ、上流からの取水等の**施設配置の最適化**を推進
- ◆ **DX技術導入等によるメンテナンスの効率化**を推進
- ◆ 上下水道一体の**ウォーターPPP（※）**等による**官民連携**を推進



（※）ウォーターPPPとは・・・

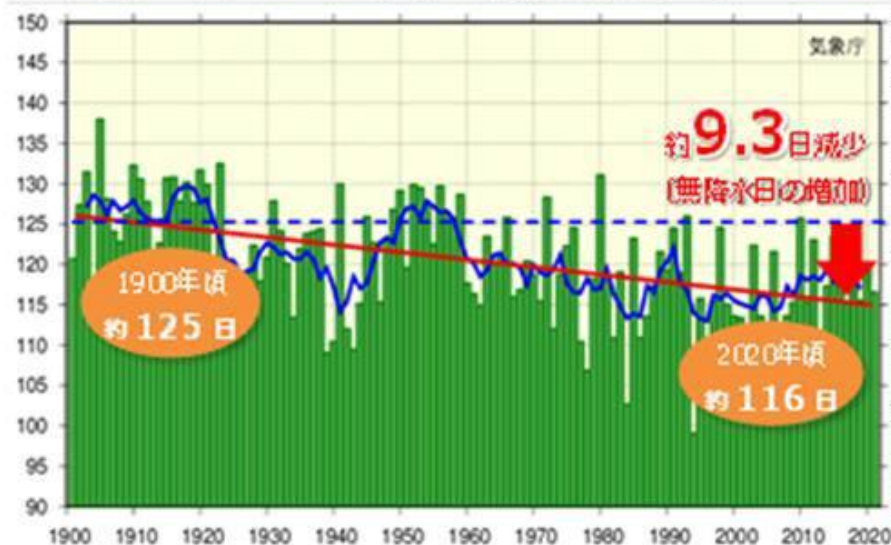
令和5年6月2日に内閣府が発表した「PPP/PFI推進アクションプラン」においてその位置づけが明記された**新たな官民連携方式の1つ**です。**持続的な上下水道の管理運営**のためには、これらの**課題（担い手の減少・施設の老朽化・収入の減少）への対応**が必要です。その課題を解決する取組の一つとして**民間のノウハウ・創意工夫**を活用する「ウォーターPPP」が位置付けられ、地方公共団体で導入検討が進められています。

③ 2050年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進

【背景・課題】

- ◆ 大雨の発生頻度は増加する一方で、無降水日も増加しており、雨の降り方が極端化。世界規模で異常気象が発生し、大規模な自然災害が増加。
- ◆ 二酸化炭素排出量の削減は急務
- ◆ 一部の流域では、官民連携の下、流域一体でカーボンニュートラルを目指す取組を実施

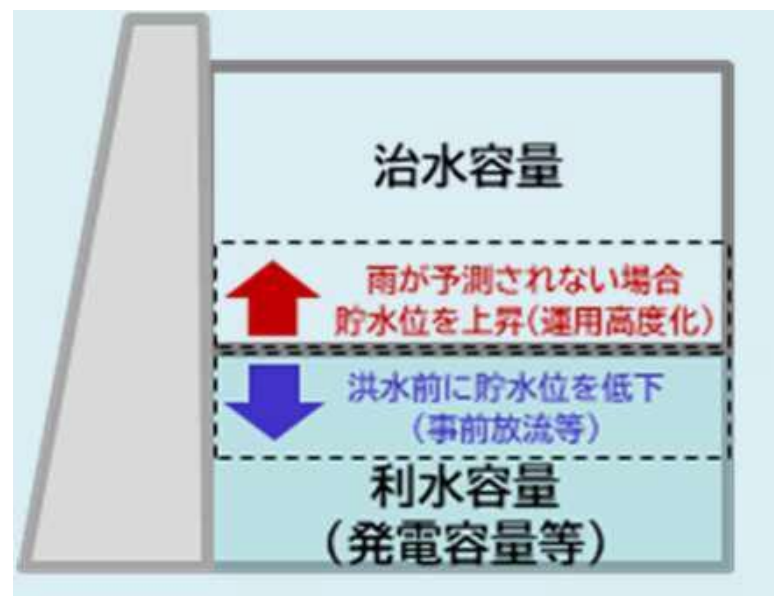
◆ 雨の降った日数の変化(全国)



③ 2050年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進

【新たな基本計画における取組例】

- ◆ 流域一体での**カーボンニュートラル**に向けた取組みを推進
- ◆ 全国の各種ダム等の**インフラを最大限活用し、DXの導入**や流域の関係者の連携による**最適な水管理**を徹底し、**官民連携**による**水力発電の最大化**等を推進
- ◆ 上下水道施設等施設配置の最適化（上流からの取水、汚水処理の集約や施設の統廃合）による**省エネルギー化**を推進
- ◆ 森林の整備や保全による**温室効果ガスの吸収源対策**を推進
- ◆ **渇水対策**や**治水対策**などの適応策を推進



ダムの運用高度化



④ 健全な水循環に向けた流域総合水管理の展開

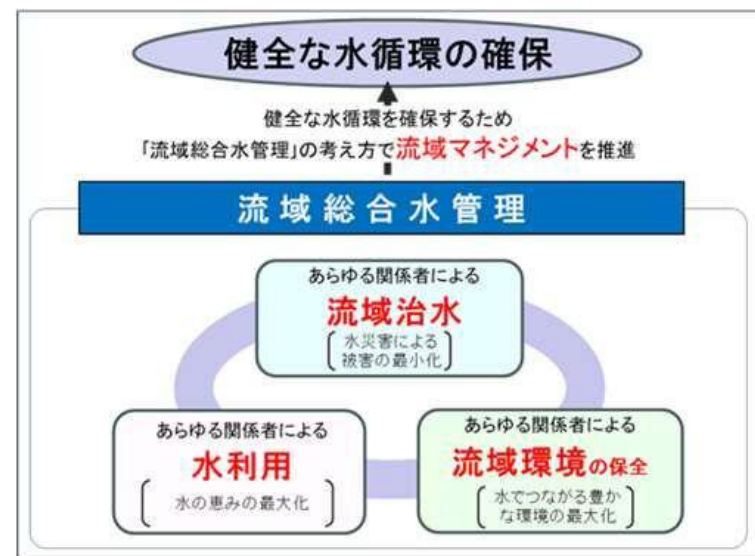
【背景・課題】

- ◆ 水循環に関する課題は様々で、地域の特性・特徴も異なるため、**地域の実情に応じた水循環**の在り方が重要
- ◆ **流域マネジメント**の実施に当たっては、治水のみならず、水利用及び環境の各目的においても、**流域のあらゆる関係者が協働**した総合的な取組を行うことが重要

④ 健全な水循環に向けた流域総合水管理の展開

【新たな基本計画における取組例】

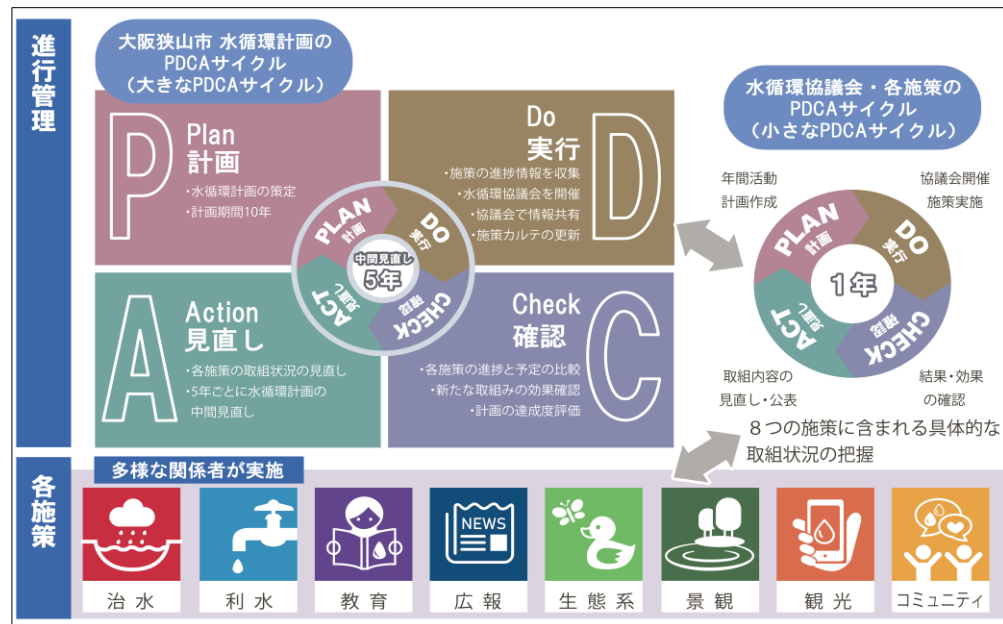
- ◆ あらゆる関係者により、AIやデジタル技術などを活用して、流域治水、水利用、流域環境の保全等に一体的に取り組み、「水災害による被害の最小化」、「水の恵みの最大化」、「水でつながる豊かな環境の最大化」を目指す「**流域総合水管理**」を各流域の特性を踏まえつつ、全国へ展開
- ◆ 地方公共団体等が流域内での水循環に係る課題や水循環施策を定める**流域水循環計画**に**流域総合水管理**の考え方を取り入れられるよう、有識者となる**水循環アドバイザー**の派遣や**手引の改定**などにより支援



流域総合水管理の考え方（イメージ）

(3) 大阪狭山市水循環計画の現状

- 計画策定 令和5年3月策定
- 計画の期間 **令和5年から令和14年までの10年間**
- 未来の姿を実現するために、市民、民間団体や事業者などとの連携や協働などによって、今ある水循環を次世代に継承しながら、効果的、効率的に各種事業が推進できるような取組みや考え方を示し、水循環に関する既存計画や実施中の施策などとの整合に留意しつつ、**連携が取れるよう推進**します。



➡ 次回の中間見直しに向けて、**令和8年度から準備を進めていく**予定です。

取り組み状況の確認・共有（施策カルテによる進捗共有）

8つの施策における取り組みの課題について（効果的な実施のために）

1. 治水

流域治水により、効果的に浸水被害を低減するための取り組み

2. 利水

水資源の持つ多面的な要素を最大限に活用するための取り組み

3. 教育

健全な水環境の理解・関心を深める水環境教育を推進する取り組み

4. 広報

幅広い関係者が、水循環活動に参加しやすくなる広報・周知に関する取り組み

5. 生態系

身近な水辺の生態系をまちづくりに取り入れ、生物多様性を保全する取り組み

6. 景観

ため池や農業用水路、河川の魅力を再認識しながら、快適な水辺景観を創出する取り組み

7. 観光

狭山池や農産物など本市の水を活かした観光を通じて、まちの魅力をPRする取り組み

8. コミュニティ

水関連イベントなどの水辺空間を活かしたにぎわいの場を創出する取り組み

(1) 今年度の水循環計画に係る活動報告

① 大阪狭山市水循環学習会（来年度は名称変更予定）

- ◆ 令和7年8月23日に第4回大阪狭山市水循環学習会を開催しました。
- ◆ 前年度の講師のご紹介でお越しいただき、講話やパネルディスカッションといった形で本市の水循環について学習する会になっています。
- ◆ 今年も8月1日の『水の日』の近くで開催する予定です。

第4回
大阪狭山市水循環学習会

第1部 講演
13:30~
ため池の現状から考える地域の水循環と水環境

内容
日本には約16万もの農業用ため池があります。狭山地のように歴史のあるものも多く、地域の水循環のみならず生物多様性や憩いの場として私たちの暮らしに重要な役割を果たしてきました。しかしながら、気候変動と人口減少はため池を取り巻く環境を大きく変えようとしています。ため池がもたらしている現状から私たちの地域の水循環や水環境について考えてみます。

渡部 哲史氏
九州大学
比較社会文化研究院
准教授

第2部
15:00~
パネルディスカッション
大阪狭山市の水循環のこれから

第1回から第4回の水循環学習会において講演を行った講師と、古川照人大阪狭山市長がパネリストとなり、未来の大阪狭山市の水循環などについて考えます。

コーディネータ
大阪公立大学
遠藤 崇浩氏

第1回講師
パネリスト
水の安全保障戦略機構
武田 教秀氏

第2回講師
パネリスト
大阪大学
村上 道夫氏

第3回講師
パネリスト
名古屋大学
中村 晋一郎氏

第4回講師
パネリスト
九州大学
渡部 哲史氏

パネリスト
大阪狭山市長
古川 照人氏

日時 令和7年8月23日(土) 13時15分開演
会場 大阪府立狭山池博物館 2階 ホール 12時45分開場
定員 90名(申込先着順)
問い合わせ 大阪狭山市水政策部 水循環担当
☎ 072-360-4407
✉ gesuido@city.osakasayama.osaka.jp
※二次元コードから申し込めない場合はご連絡ください

